

# 中海エコ活動レポート



鳥取県・島根県それぞれのNPO団体と両県の行政が共に協働している「『中海の魅力ある文化』再発見・体験・創造事業」の内容を紹介します。写真は、その一つ「伝統食文化の伝承：ゴズ（ハゼ）の昆布巻き作り」です（詳細は本文）。



米子市、境港市、松江市、出雲市、安来市の5市で構成する「中海・宍道湖・大山圏域市長会」では、中海・宍道湖を中心とした自然環境への理解を深め、そしてそれらを自分たちの財産として大切に思う気持ちを育てるため、環境教育活動の支援を行ってられます。

その取り組みの一つが「中海・宍道湖子ども探検クルーズ」で、今年は7/27（金）、7/31（火）、8/2（木）の3日間にわたり開催。これは、ラムサール条約に登録された中海や宍道湖の風景を船上から楽しむとともに、中海や宍道湖の自然や水質について学習することを目的に実施されたもので、中海・宍道湖周辺5市の小学生とその保護者約190名が参加されました。（詳細は本文）

- 食べて！泳いで！歌って！  
～中海を五感で楽しもう～
- 中海・宍道湖子ども探検クルーズ
- 中海会議が開催

- ラムサール条約リレーシンポジウム  
～宍道湖・中海のつながり、歴史、恵みを感じる～
- 中海エコ活動レポートで環境授業

# 食べて！泳いで！歌って！ ～中海を五感で楽しもう～

鳥取・島根広域連携協働事業

「『中海の魅力ある文化』再発見・体験・創造事業」

(表紙に関連写真)

この事業は以下の4つの内容からなっています。

## ① 中海オープンウォータースイム (6月に開催し、終了)

海・湖・川などで3Km、5Km、10Kmと長距離を泳ぐ水泳競技で、オリンピックでは北京大会から正式種目となりました。今回は県内外から100名以上の選手が米子市湊山公園沖で3Kmを泳ぎました。県外の選手から「中海は言われているほど汚れていない」という声がたくさん寄せられました。今後、この大会が「日本水泳連盟認定大会」として実施されるよう、準備が進められています。そうなれば2016年のオリンピック代表が中海から誕生するかも！?



中海オープンウォータースイム

## ② 伝統食文化(ゴズの昆布巻き)の 伝承及び、調理方法の映像記録 (10月に開催し、終了)

子ども達に中海を五感で感じて、関心を持ってもらうための「中海の環境教育カリキュラム」をつくることを目的に、東出雲の意東小学校で「伝統食文化ゴズの昆布巻き」を開催しました。地元の方々の指導の下、まずは釣竿作りから、釣り、加工、調理、そして給食で自分達が作ったゴズの昆布巻きを食べました。最初はゴズにさわること出来なかった子どもたちが、自分たちで作ったゴズの昆布巻きは「美味しい!」と言って食べていました。

## ③ スジアオノリの養殖・収穫・加工体験 (10月～1月に開催)

②の目的と同様に、本庄小学校と東出雲の3つのエコクラブの子どもたちが中海に入ってスジアオノリを育て、収穫、さらに加工して食べる体験を行います。子どもたちは、「スジアオ

ノリが出来たらどうやって食べようかな?」と中海で育つスジアオノリの成長を今から楽しみにしています。中海が水産資源の生産の場であるということを実感してもらい、そこに生息している生物に関心を持ち、そしてスジアオノリを育てることで新たな産業のヒントにつながれば、と考えています。



スジアオノリの養殖体験

## ④ 「中海の歌」「中海の作文・論文」 コンクール(現在、募集中)

次世代に引き継ぐべきものを作文や論文、歌として発表してもらおう計画で、現在募集中です。詳しくは両NPOのホームページをご覧ください。

私たちはこれらの催しにより、中海を通じて両県民の相互理解がさらに深まり、中海や宍道湖を別々に捉えるのではなく「中海・宍道湖圏」という1つの圏域として捉える意識が両県民の中で育つことを期待しています。

(※) この『中海の魅力ある文化』再発見・体験・創造事業は、島根県のNPO法人自然再生センターと鳥取県のNPO法人中海再生プロジェクトの2つが共同体となり、提案し実施しています。

### ■ NPO法人 自然再生センター

〒690-0064 松江市天神町28番地  
TEL (0852)21-4882  
FAX (0852)61-0900

### ■ NPO法人 中海再生プロジェクト

〒683-0852 米子市河崎610  
TEL (0859)29-2854  
FAX (0859)29-3210

(表紙に関連写真)

「中海・宍道湖子ども探検クルーズ」は、中海・宍道湖・大山圏域市長会の主催で、2年前から実施しています。今年は夏休み期間の3日間実施し、そのうち7/27(金)には84名が遊覧船に乗り込み、松江市八束町の波入港から中海の湖心へ向かいました。到着するまでの20分間は、中海に関するクイズや講師の解説を聞きながら、中海がどんな湖なのかを学習。そして湖心に到着すると、船尾のデッキに出たの観察学習です。

まずは水の透明度を調べます。「透明度板」を沈めると、湖心の透明度は約2メートルでした。次は「採水器」で表層部分の水と湖底部分(水深約6メートル)の水を採り、水の違いを調べます。表層の水温は



透明度の測定

27℃でしたが湖底の水温は22℃、表層の水に比べて湖底の水にはあまり酸素が溶けていないということや、塩分濃度は湖底の水のほうが高い(塩辛い)ということなどがわかりました。また、「パックテスト」という水質の簡易測定器を使って水の汚れ具合も測定してみました。最後は「採泥器」を使い湖底のヘドロを取ってみます。ヘドロを触ってみて「気持ち悪い!」「臭い!」との声が上がりましたが、こんなヘドロの中にも生き物が住んでいることもわかりました。



ヘドロの観察

観察学習が終わると、再び講師と一緒にクイズをしたり、観察学習のおさらいをしながら波入港へ到着し、約2時間のクルーズが終了しました。参加した小学生からは「湖の中の水は一緒じゃないことを初めて知った。」「汽水湖って不思議だと思った。」「中海をもっときれいにしたい。」などの声が聞かれました。

中海・宍道湖・大山圏域市長会では、今後も環境教育に関する取り組みを進めて行く考えです。



■中海・宍道湖・大山圏域市長会  
〒683-8686 米子市加茂町1-1  
TEL (0859) 23-5376  
<http://www.nakaumi.jp/>

## 中海会議が開催

鳥取県・島根県 共同開催

中海会議は、未来に向かってより良い中海圏域を築くため、中海の水に関する諸問題を協議検討する場として、平成22年4月に設置した会議で、両県知事、中海周辺4市長、国の関係機関などオブザーバーを含め10者で構成して開催されています。

24年度の会議が8月28日に米子市内で開催され、中海で最も水質が悪いとされている米子湾の監視体制の強化として、流動の現地観測と解析による米子湾の知見の整理や、流入河川の水質や底質を含めた総合的な調査を実施する事業を今年度から新たに行う事などが報告されました。

また、会議では中海のアサリを特別に入れた

郷土料理の「いただき」や、近年注目されている中海のオゴノリを使った酢の物が披露されました。



鳥取県・島根県の両県で実施する「ラムサール条約リレーシンポジウム」が、今年も7月27日のバスツアーを皮切りに始まりました。今回のバスツアーでは、八雲立つ風土記の丘や宍道湖自然館のグリーンパーク、ゴビウスをまわり、子どもたち20名を含む参加者29名が宍道湖・中海の歴史や自然を学びました。

八雲立つ風土記の丘では、中海・宍道湖の成り立ちや、土器や古墳について学んだり、宍道湖自然館グリーンパークとゴビウスでは、3種類の塩水をなめて「中海の水」「宍道湖の水」「海の水」を当てる「中海・宍道湖の水当てクイズ」に参加するなど、皆さん興味津々で見入っておられました。

またリレーシンポジウムの一つとして、12月



宍道湖自然館での学習

15日(土)には、さかなクンをお呼びしての「両県合同シンポジウム「ギョギョっと、びっくり、さかなクン!中海・宍道湖のお魚たちとともに~!!」(於:境港シンフォニーガーデン)も企画されていますのでご期待下さい。

※ 12月15日のお問い合わせは(株)中海テレビ放送内 さかなクン担当まで(電話(0859)29-2854)。

## 中海エコ活動レポートで環境授業

米子市立後藤ヶ丘中学校 齋木教諭

後藤ヶ丘中学校の校区は中海と接しています。私は、「生徒達は中海をどんな風に見ているのだろうか?」「一生懸命活動しておられる人の存在をうまく伝えることができないか?」と考えていました。今年、島根大学で研修する機会をいただき、「藻刈り」と題した中海エコ活動レポート(第10号)を手に入れました。裏面にはマンガで藻刈りの目的や、中海の水質浄化とのつながりが分かりやすく説明してありました。「よし、これをつかって中海に興味を持たせる授業をしよう。そして地域の自然を大切にする意識や態度を育てよう。」と生徒向けの環境教育に取り組みました。



中学校での授業の様子

授業の流れは以下の通りです。

- ①中海のヘドロの中に生物がいるのか調べる。
- ②ヘドロはどんな成分なのか、ヘドロのにおいの原因は何なのか調べる。
- ③中海をきれいにするためにどんな活動が行われるのかを学ぶ。そして自分たちが心がけなければならないことを考える。

はじめは、ヘドロの強烈な臭さに尻込みしていた生徒達も、だんだんと興味を持ち始め、ヘドロで手を真っ黒にしながらも笑顔で実験する生徒が増えていきました。今後も身近な自然を大切にする学習を積み重ねていきたいと思っています。

【授業後の生徒感想文より】

- 最初は、ヘドロの臭さがすごくいやだったけど、勉強していくうちに、中海を汚したのが「人」なのならば中海をきれいに戻すのも「人」という考えになっていきました。
- 中海は、人間が使い人間が汚しているから、きちんと人間がきれいにしないとイケないことが分かりました。そして、中海の中にある「ヘドロ」にはどのような成分が含まれているのかが分かりました。

## 中海の環境活動イベント情報をホームページに掲載しています

中海・宍道湖情報館 イベント情報 ホームページアドレス <http://www.nakaumi-shinjiko.jp/calendar.html>

### 編集・発行者

鳥取県西部総合事務所  
生活環境局環境・循環推進課  
鳥取県米子市鞆町一丁目160  
電話 (0859)31-9350

E-mail: seibuseikatsukankyo@pref.tottori.jp  
Homepage: <http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=69208>

### 島根県環境生活部環境政策課

宍道湖・中海対策推進室  
島根県松江市殿町1番地  
電話 (0852)22-6445

E-mail: kankyo@pref.shimane.lg.jp  
Homepage: [http://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko\\_nakaumi/](http://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko_nakaumi/)

### 記事募集

中海エコ活動レポートに掲載する記事、イベント情報、写真を募集しています。詳しくは、左記連絡先に連絡していただくか、ホームページをご確認してください。なお、投稿にあたっては出来る限り電子データで投稿をお願いします。